

2026 年 8 月 27 日

各 位

株 式 会 社 オ ー ケ ー ウ ェ ブ
代 表 取 締 役 社 長 杉 浦 元
(コード番号：3808 名証ネクスト)
問 い 合 せ 先 経 営 管 理 部 マ ネ ー ジ ャ ー 石 川 修
電 話 番 号 03-6823-4306

**(訂正)「特別損失の計上及び連結・個別業績と前期実績値との差異に
関するお知らせ」の一部訂正について**

当社は、2026年8月14日に公表いたしました「特別損失の計上及び連結・個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ」において、記載内容の一部を下記のとおり訂正いたします。なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

1. 訂正の理由

当社は、2026年8月14日公表の「2026年6月期決算短信〔日本基準〕（連結）」および「特別損失の計上及び連結・個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ」において、ソフトウェア開発について42百万円の減損損失を特別損失として計上する旨を、監査法人に確認のうえ報告しておりました。その際、2026年6月期末までに支払いは完了しているものの納品が未了分については、仮払金として計上しておりました。その後、納品未了分についても2026年8月末納品見込みとなり、その点について決算発表後に行われた監査法人の審査会より、修正後発事象として当該仮払金をソフトウェア仮勘定として計上すべきである旨の指摘を受けました。

それにより、監査法人と改めて協議の上、2026年8月末納品完了予定分についても、一連のソフトウェア開発群として減損する必要があるものとして、41百万円の追加の減損損失を追加で計上しております。

また、株式会社オープンサイトののれんの未償却残高については、当初株式取得時のサービス「Sincerely yours」を2026年7月22日に「aikata（アイカタ）」として全面リニューアルをすることにより、2028年6月期以降の計画も加味して、監査法人に確認の上減損損失は不要と判断いたしました。

しかしながら、決算公表後に行われた監査法人の審査会より、当初計画からの大幅な変更を行い、2027年6月期は積極投資を行っていく方針であることから、2028年6月期以降の計画の妥当性を現時点で見込むことは困難であり、当初ののれんについて減損する必要があると指摘を受け、監査法人と改めて協議の上、株式会社オープンサイトののれんの未償却残高61百万円について全額減損損失を追加で計上しております。

その他、期末監査の過程で判明した軽微な数値変更についても、併せて訂正を行っております。

2. 訂正の内容

【訂正前】

1. 特別損失の計上について

(1) 特別損失の内容

当社は、SaaS 型感謝プラットフォーム「GRATICA」の機能改善及び Q&A コミュニティ「OKWAVE」の刷新を図るソフトウェアの開発を進めてまいりましたが、これまでの両サービスの収益性が赤字であること、また将来の見通しを踏まえ、その資産性を会計基準に従い保守的に評価した結果、特別損失として 42 百万円 の減損損失を計上いたしました。

2. 連結・個別業績と前期実績値との差異について

(1) 2026 年 6 月期連結業績と前期実績との差異 (2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

	売上高	営業損失 (△)	経常損失 (△)	親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	親会社株主に帰属する 1 株当たり当期純損失 (△)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A) (2025 年 6 月期)	234	△114	△160	△135	△3.28
当期実績 (B) (2026 年 6 月期)	270	△202	△208	<u>△255</u>	<u>△5.09</u>
増減額 (B-A)	36	△87	△48	<u>△120</u>	—
増減率 (%)	<u>115.4</u>	<u>△176.6</u>	<u>△130.4</u>	<u>△189.1</u>	—

(2) 2026 年 6 月期個別業績と前期実績との差異 (2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

	売上高	営業損失 (△)	経常損失 (△)	当期純損失 (△)	1 株当たり当期純損失 (△)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A) (2025 年 6 月期)	177	△123	△159	△127	△3.09
当期実績 (B) (2026 年 6 月期)	182	△182	△177	<u>△219</u>	<u>△4.36</u>
増減額 (B-A)	4	△58	△18	<u>△91</u>	—
増減率 (%)	<u>102.8</u>	<u>△147.3</u>	<u>△111.5</u>	<u>△172.2</u>	—

(3) 差異が生じた理由

商品力及び販売力の不足といった構造的な赤字構造から脱却するため、人員の補充（採用費及び人件費の増加）や M&A 等の先行投資を進めたことで費用が増加しました。これにより営業損失幅が拡大しております。また最終損益段階では、上記のソフトウェアの減損損失を計上したことにより、当期純損失を膨らませる結果となりました。

【訂正後】

1. 特別損失の計上について

(1) 特別損失の内容

当社は、SaaS 型感謝プラットフォーム「GRATICA」の機能改善及び Q&A コミュニティ「OKWAVE」の刷新を図るソフトウェアの開発を進めてまいりましたが、これまでの両サービスの収益性が赤

字であること、また将来の見通しを踏まえ、その資産性を会計基準に従い、2026年8月末納品予定分も含め保守的に評価した結果、特別損失として84百万円の減損損失を計上いたしました。

また、2024年7月に子会社化したしましたオープンサイト社につきまして、事業計画の見直しを行い、将来の回収可能性について慎重に検討した結果、のれん61百万円を減損損失として計上することにいたしました。

2. 連結・個別業績と前期実績値との差異について

(1) 2026年6月期連結業績と前期実績との差異(2025年7月1日～2026年6月30日)

	売上高	営業損失(△)	経常損失(△)	親会社株主に帰属する当期純損失(△)	親会社株主に帰属する1株当たり当期純損失(△)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A) (2025年6月期)	234	△114	△160	△135	△3.28
当期実績(B) (2026年6月期)	270	△202	△208	<u>△358</u>	<u>△7.16</u>
増減額(B-A)	36	△87	△48	<u>△223</u>	—
増減率(%)	<u>15.4</u>	二	二	二	—

(2) 2026年6月期個別業績と前期実績との差異(2025年7月1日～2026年6月30日)

	売上高	営業損失(△)	経常損失(△)	当期純損失(△)	1株当たり当期純損失(△)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A) (2025年6月期)	177	△123	△159	△127	△3.09
当期実績(B) (2026年6月期)	182	△182	△177	<u>△319</u>	<u>△6.37</u>
増減額(B-A)	4	△58	△18	<u>△191</u>	—
増減率(%)	<u>2.8</u>	二	二	二	—

(3) 差異が生じた理由

商品力及び販売力の不足といった構造的な赤字構造から脱却するため、人員の補充(採用費及び人件費の増加)やM&A等の先行投資を進めたことで費用が増加しました。これにより営業損失幅が拡大しております。また最終損益段階では、上記のソフトウェアおよびのれんの減損損失を計上したことにより、当期純損失を膨らませる結果となりました。

3. その他

2026年8月14日に公表いたしました「2026年6月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」においても、記載内容の一部を訂正いたします。詳細につきましては、本日公表しました「(訂正・数値データ訂正)「2026年6月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」をご参照ください。

以 上